

エコアクション21

## 環境経営レポート

2024.6.1～2025.5.31



2025年7月1日作成

株式会社 鹿 熊 組

## 目 次

1. 環境経営方針
2. 事業内容
  - 1) 事業所名及び代表者名
  - 2) 所在地
  - 3) 環境管理責任者及び担当者
  - 4) 事業内容
  - 5) 事業規模
3. 活動組織
4. 環境経営目標(中長期)
5. 環境経営活動の取組結果と評価
  - 1) 環境経営への取り組み
6. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無
7. 代表者の評価と見直し

## 環境経営方針

### 【環境経営に対する基本理念】

当社の経営姿勢は常に堅実性に重点をおき、誠実・情熱・技術の三本の柱で様々なお客様のご要望にお応えすることをめざしてまいりました。

当社が長年にわたり蓄積してきた技術力を活かし、三本の柱の元で、環境負荷の発生を可能な限り軽減して、自然環境の維持・改善・向上・保護を目的とした持続的活動を行うことにより人類共通の課題である環境問題に取り組んでまいります。

### 【環境経営方針】

- ① 省エネルギーに努めて、温室効果ガスの発生を可能な限り抑制いたします。
- ② 当社の事業活動に伴い発生する産業廃棄物及び建設副産物の発生抑制・削減・リサイクルに取り組めます。
- ③ 環境に配慮した製品・サービスの提供に努めます。
- ④ 節水に心がけ水資源の有効活用を行います。
- ⑤ 環境関係法規制を遵守します。

これらについて環境目標・活動計画を定め、全従業員に周知し実行します。  
定期的に見直しを行い、継続的な改善に努めてまいります。

制定日	2011年4月20日
改定日	2024年4月1日

株式会社 鹿熊組  
代表取締役社長 鹿熊 聡

## 2. 事業内容

### 1) 事業所名及び代表者名

株式会社 鹿熊組  
代表取締役社長 鹿熊 聡

### 2) 所在地

本 社 長野県長野市大字鶴賀緑町1631番地3号  
機材センター 長野県長野市真島町川合2036番地61号

### 3) 環境管理責任者及び担当者

環境管理責任者	管理部	鹿熊 弘
環境管理担当者	管理部	鹿熊 弘
	土木部	田中栄一
	建築部	内川隆明 鹿熊崇
環境管理事務局	管理部	黒岩拓未
連絡先	TEL	026-235-3311
	FAX	026-235-3315
	HP	<a href="http://www.kakumagumi.com">http://www.kakumagumi.com</a>
	E-mail	<a href="mailto:soumu.info@kakumagumi.com">soumu.info@kakumagumi.com</a>

### 4) 事業内容

総合建設業 許可番号 長野県知事 許可(特-26)第22710号

建設業の種類  
土木、大工、石、管、鋼構造物、しゅんせつ、  
防水、造園、建築、とび・土工、屋根、  
タイル・れんが・ブロック、舗装、塗装、  
内装仕上、水道施設工事業

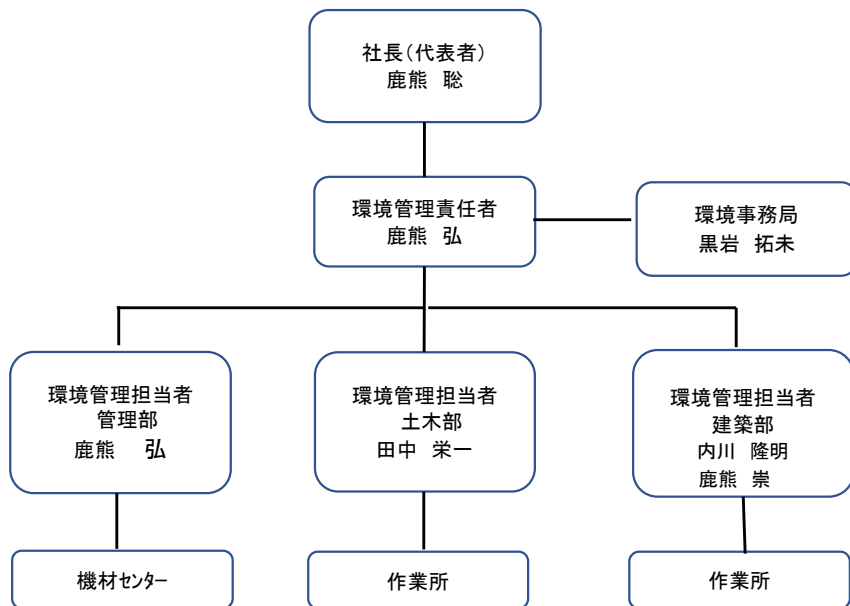
### 5) 事業規模

完成工事高		
63期	1,743百万円	(2021年6月1日～2022年5月31日)
64期	6,191百万円	(2022年6月1日～2023年5月31日)
65期	1,560百万円	(2023年6月1日～2024年5月31日)
66期	5,507百万円	(2024年6月1日～2025年5月31日)
従業員数	86人	
本社床面積	1132.1m <sup>2</sup>	
機材センター床面積	5963.6m <sup>2</sup>	

### 6) 認証・登録の対象範囲

対象事業所	本社、機材センター
対象事業活動	建築物及び土木構造物の設計・施工

### 3. 活動組織



責任者	役割・責任・権限
社長（代表者）	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境経営に関する統括責任</li> <li>環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間、技能、技術者を準備</li> <li>環境管理責任者・部門担当者を任命</li> <li>環境方針の策定・見直し及び全従業員へ周知</li> <li>環境目標・環境活動計画書を承認</li> <li>代表者による全体の評価と見直しを実施</li> <li>環境活動レポートの承認</li> </ul>
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境経営システムの構築、実施、管理、</li> <li>環境関連法規等の取りまとめ票を承認</li> <li>環境目標・環境活動計画書を確認</li> <li>環境活動の取組結果を代表者へ報告</li> <li>環境活動レポートの確認</li> <li>環境事務局の設立、担当者の任命</li> </ul>
環境事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境管理責任者の補佐、EA21推進委員会の事務局</li> <li>環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施</li> <li>環境目標、環境活動計画書原案の作成</li> <li>環境活動の実績集計</li> <li>環境関連法規等取りまとめ表の作成</li> <li>環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施</li> <li>環境関連の外部コミュニケーションの窓口</li> <li>環境活動レポートの作成、公開（事務所に備付けと地域事務局への送付）</li> </ul>
環境管理担当者 (部門長)	<ul style="list-style-type: none"> <li>自部門における環境経営システムの計画・実施</li> <li>自部門における環境方針の周知</li> <li>自部門の従業員に対する教育訓練の実施</li> <li>自部門に関連する環境活動計画の実施及び達成状況の報告</li> <li>特定された項目の手順書作成及び運用管理</li> <li>自部門の特定された緊急事態への対応のための手順書作成</li> <li>教育、訓練を実施、記録の作成</li> <li>自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施</li> <li>環境活動の内部コミュニケーションの実施</li> </ul>
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚</li> <li>環境活動の具体策の提案、活動状況の定期報告</li> <li>決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加</li> </ul>

## 4. 環境経営目標（中長期）

- ・ 中部電力㈱ 2023年度 二酸化炭素調整後排出係数 **0.421kg-CO2/kWh**を使用

		期間	2023.6～2024.5	2024.6～2025.5	2025.6～2026.5	2026.6～2027.5
項 目		単 位	基準値(65期)	66期目標	67期目標	68期目標
二 酸 化 炭 素 削 減	CO2排出量	kg-CO2	501,867	496,848	494,339	486,911
		(%)	100%	99%	98.5%	98%
	電力	kWh	212,819	210,691	209,627	206,477
		kg-CO2	89,597	88,701	88,253	86,927
	ガソリン	ℓ	74,816	74,068	73,694	72,587
		kg-CO2	173,574	171,838	170,970	168,401
	軽油	ℓ	68,156	67,474	67,133	66,125
		kg-CO2	175,842	174,083	173,204	170,602
	灯油	ℓ	15,511	15,355	15,278	15,048
		kg-CO2	38,621	38,235	38,042	37,470
	都市ガス	m3	11,219	11,107	11,051	10,885
		kg-CO2	24,233	23,991	23,870	23,511
一般廃棄物		kg	4,096	4,055	4,035	3,974
産業廃棄物		t	1,868	1,850	1,840	1,813
水使用量		m <sup>3</sup>	2,804	2,748	2,692	2636
製品への環境配慮		環境配慮型建設資材、工法の提案・実施			提案実施50%以上	
地域環境貢献		会社・現場周辺の清掃			毎週1回以上	

## 中長期の目標と計画（2024.6.1～2025/5/31）

項 目		目標達成に向けての計画・施策	中期計画	責任者
二酸化炭素削減	CO2排出量	1.空調温度の適正化（冷房25度、暖房20度） 2.時間帯消灯・機器電源OFF（昼休憩・外出時等、休日、夜間） 3.効率化による残業・休日出勤削減 4.空間利用（在室人員のまとまり）の工夫 5.省電設定、省電機器の導入の追加検討 6.社内ルールへの遵守（制限・約束）	1.前年手段の継続・改善 2.前年検討事項の実施への取組 3.社員行動の不良部の改善 4.残業・休日出勤の削減 5.更なる向上のための手順改善 6.社内ルールへの遵守	管理部
	電力	(通勤・移動車両) 1.エコドライブの導入 2.日常点検の励行 3.相乗りの推進 4.運行経路の適正化 5.省エネ車両への交換	1.前年手段の継続・改善 2.重点事項の推進（重点事項） ・エコドライブの励行 ・省エネ車両への交換の推進 ・関係会社の協力による適性機械の使用促進 ・作業手順の適性による過剰負荷の軽減 ・作業所間調整による運行経路の適正化による走行距離の短縮 ・省エネルギー型機器の導入の可能性の検討 ・新規改善策の検討	管理部
	ガソリン	(重機械)		
	軽油	1.アイドリング時間の短縮 2.休憩時間のエンジンストップ 3.過剰負荷の軽減		
	灯油	(輸送) 1.共積みの励行 2.配送経路の適正化・集約化		
	都市ガス	(設備) 1.定期点検の励行		
一般廃棄物		(全般) 1. 分別の徹底・混合廃棄物の削減 2. 分別ボックス・スペースの確保 3. 周知・徹底 (減量) 1. データベース化の促進 2. 書類の簡素化の推進 3. 両面コピーの促進 4. ミスコピー・ミス印刷の減量 (リサイクル促進) 1. 意識の高揚 2. 廃棄物に関する知識の向上 3. 本社廃棄物の重量測定～社内への通知・減量促進	1. 前年手段の継続 2. 重点事項の推進（重点） ・不良者の発見と指導 ・周知・徹底 ・整理整頓 ・工夫及び意識改革 ・手順の改善(社内資料)  ・保管書類の削減(保管基準、保管方法)  (リサイクル促進) 1. 意識の高揚のための再教育	管理部 土木部 建築部
産業廃棄物				
水使用量		(本社) 1. 自動給水装置の水量調整 2. 節水の励行の周知・徹底のための社員教育（作業所・機材） 1. 用水利用の促進 2. 雨水利用の促進	1. 前年度の継続（作業所） 1. 洗車回数の制限 2. 循環型の導入等による再利用の促進	管理部
製品への環境配慮		1. 設計、見積案件においての、環境配慮型材料・工法・設備の提案のための基準作成 2. 上記について提案の実施 3. 熱意を持った働きかけ	1. 前年手段の継続・改善	土木部 建築部
地域環境貢献		4. 官庁・民間工事(環境配慮)創意工夫・ボランティア活動等の実施		
PRTRの取り扱い		1.低化学物質の建材・材料の使用 2.・現場で化学物質を使用する際は、使用量・使用場所、保管場所等を明確化 3.現場で使用する化学物質は、SDS又はメーカーの取り扱いに従って適正に管理 4.化学物質リスクアセスメントの導入	1.前年手段の継続・改善 2.低化学物質の建材・材料の提案 3.化学物質リスクアセスメントの導入 4.有害性の化学物質の表示及びSDSの内容を教育・周知	土木部 建築部

## 5. 環境経営活動の取組結果と評価

### 1) 環境経営活動の取組結果

※排出係数66期は0.421で計算(65期は0.421で再計算)

					2023.6～2024.5	2024.6～2025.5	2024.6～2025.5		
	項目	区分	管理種別	単位	65期実績(昨年)	66期目標	66期実績	対目標比率	活動評価と次年度の活動
電力の削減	電力	本社・機材	使用量	kwh	85,076	84,651	73,463	86.8%	○本社・機材では、電力使用量が前年より減少し、CO2排出量も削減目標を達成した。一方、作業所では前年よりも使用量が上回る結果となった。 ○次年度は、本社・機材において省エネ運用を継続し、作業所においては機器運用や照明管理の見直しを進める。
			CO2換算値	kg-CO2	35,817	35,638	30,928		
		作業所	使用量	kwh	127,743	127,104	154,302	121.4%	
			CO2換算値	kg-CO2	53,780	53,511	64,961		
			合計		CO2換算値	kg-CO2	89,597	89,149	

					2023.6～2024.5	2024.6～2025.5	2024.6～2025.5		
	項目	区分	管理種別	単位	65期実績(昨年)	66期目標	66期実績	対目標比率	活動評価と次年度の活動
削減の 燃料の	ガソリン	本社・機材	使用量	リットル	66,033	65,703	54,705	83.3%	【ガソリン】 ○昨年に比べると、やや近辺の現場が増えたため、ガソリン使用量は減少した。 ○今年度同様、エコドライブの励行・現場乗合により使用量減少を心掛ける。 【軽油】 ○66期より計上方法を変更したため数値が大幅に変動。 ○下請企業との契約において、外注工事費（燃料込み）としているケースも多いため、燃料費軽油においては比較が非常に難しいのが現状である。 ○比較検討の方法については社内でも模索し、またエコドライブを意識した運転を意識させる。 【灯油】 ○本社・機材においては昨年に比べ、灯油の使用量が大幅に減少した。一方で、作業所においては大幅に使用量が増加しており、節電の影響から灯油暖房が増えたことが要因の一つと考えられる。 ○今後は高効率機器への更新を視野に、灯油使用量の削減を検討する。
			C02換算値	kg-CO2	153,196	152,430	126,915		
		作業所	使用量	リットル	8,783	8,740	8,080	92.4%	
			C02換算値	kg-CO2	20,378	20,276	18,744		
	軽油	本社・機材	使用量	リットル	343	342	4,838	1416.6%	
			C02換算値	kg-CO2	886	881	12,481		
		作業所	使用量	リットル	67,812	67,473	57,176	84.7%	
			C02換算値	kg-CO2	174,956	174,081	147,514		
	灯油	本社・機材	使用量	リットル	1,662	1,654	1,424	86.1%	
			C02換算値	kg-CO2	4,138	4,118	3,546		
		作業所	使用量	リットル	13,849	13,779	21,223	154.0%	
			C02換算値	kg-CO2	34,483	34,311	52,845		
		合計	C02換算値	kg-CO2	38,621	38,428	56,391	146.7%	
			都市ガス	本社・機材	使用量	m3	11,219	11,163	11,145
C02換算値	kg-CO2	24,233			24,112	24,073			

				2023.6～2024.5	2024.6～2025.5	2024.6～2025.5		
項目	区分	管理種別	単位	65期実績(昨年)	66期目標	66期実績	対目標比率	活動評価と次年度の活動
CO2排出量の削減	本社・機材	CO2換算値	kg-CO2	218,270	217,179	197,943	91.1%	○例年並みの削減率となった。 ○作業所・本社・機材センターいずれにおいてもまだまだ削減の余地があるため、再生可能エネルギーを積極的に利用し対策をしていきたい。
		CO2換算値	kg-CO2	283,597	282,179	284,065	100.7%	
	合計	CO2換算値	kg-CO2	501,867	499,357	482,009	96.5%	

				2023.6～2024.5	2024.6～2025.5	2024.6～2025.5			
水使用量の削減	項目	区分	管理種別	単位	65期実績(昨年)	66期目標	66期実績	対目標比率	活動評価と次年度の活動
	水道・下水	本社・機材	使用量	m3	465	456	780	171.2%	○工種によって使用量の波が大きく、作業所の比較が非常に難しいものの、今年度は大幅な削減に成功した。 ○本社において大幅に増加したことの要因の一つとして、今年度一斉に工期を迎え、社員が本社に集中したことが考えられるが、次年度以降も継続して節水に気を付けていきたい。
	水道	作業所	使用量	m3	2,339	2,292	402	17.5%	
		合計	使用量	m3	2,804	2,748	1,182	43.0%	

				2023.6～2024.5	2024.6～2025.5	2024.6～2025.5			
廃棄物 排出 量の 削減	項目	区分	管理種別	単位	65期実績(昨年)	66期目標	66期実績	対目標比率	活動評価と次年度の活動
	一般廃棄物	コピー用紙	使用量	kg	4,096	4,076	2,520	61.8%	○今年度は昨年度よりも書類のデジタル化を意識したことで、コピー用紙使用量の大幅な削減に成功した。 ○産業廃棄物については工事内容によって波が大きくなるため、比較が非常に難しいが、廃棄物分別の徹底や、再利用可能な素材を積極的に取り入れ、できる限りの削減をしていきたい。
			全体量	t	1,868	1,859	2,521	136%	
			再生不可率	%	4.83%	4.81%	5.81%	120.9%	
		産業廃棄物							





## 鹿熊組エコアクションへのその他取り組み



除雪作業の様子



現場周辺清掃の様子



社内での取り組み  
分別の徹底



ソーラー発電を利用し  
自然エネルギーの活用



地下水利用し  
水の使用の抑制



環境配慮型発電機の使用により油  
流出防止の実施

## 6. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

2025年7月1日

### 1. 環境関連法規の遵守状況

法規制等の名称	該当事項	要求事項	遵守状況
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	一般廃棄物及び産業廃棄物の管理、排出	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保管場所の基準の遵守、保守（保管施設、囲い、掲示板等）</li> <li>・収集運搬許可の確認</li> <li>・収集運搬者、処理業者との契約締結</li> <li>・マニフェスト発行、管理</li> <li>・マニフェスト保管（5年間）</li> <li>・産廃管理計画書・報告書の提出（毎年6月）</li> <li>・車輛への表示</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・収集運搬許可の確認</li> <li>・収集運搬者、処理業者との契約締結</li> </ul> <p>上記2項目について違反あり 長野市と協議のうえ対応済み</p> <p>その他項目遵守 違反なし</p>
資源の有効な利用の促進に関する法律	建設工事における再生資源の利用促進	・再生資源利用計画書・実施書の提出	遵守 違反なし
建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律	建設特定資材廃棄物の再資源化	・再生資源利用計画書・実施書の提出	遵守 違反なし
騒音規制法	指定地域内の特定建設作業に伴う騒音	・特定建設作業は届出	遵守 違反なし
振動規制法	指定地域内の特定建設作業に伴う振動	・特定建設作業は届出	遵守 違反なし
水質汚濁防止法	油脂を含んだ水の排出	・事故により油を含んだ水が公共用水域に排出された場合は応急処置を施すと共に県知事へ届出	遵守 違反なし
大気汚染防止法	建設機械に関する指針	建設機械に関する技術指針に則り、排出ガス基準を遵守	遵守 違反なし
フロン排出抑制法	本社工屋ガスヒートポンプ解体工事（フロン抜き取り）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・簡易点検（3か月・1回以上）</li> <li>・定期点検（3年以内・1回以上）</li> <li>・処分書類確認</li> </ul>	遵守 違反なし
労働安全衛生法	石綿障害予防規則	石綿飛散防止対策マニュアルに則り、石渡ばく露防止の徹底	遵守 違反なし
	労働安全衛生規則	「職場における熱中症対策の強化について」に則り、報告・予防体制整備、実施手順作成、関係者への周知を徹底	遵守 違反なし
じん肺法	粉塵障害予防規則	工事により発生する粉塵の抑制・拡散防止・保護具着装	遵守 違反なし
特定特殊自動車排出ガスの規制等に関する法律及び政省令	特定自動車の使用制限規制	・規制適合車の使用	遵守 違反なし
消防法 消防法施行令 消防法施工規則	油類の流出防止	・保管場所の基準の遵守、保守（保管施設、囲い、掲示板等）	遵守 違反なし
建築物のエネルギー消費性能の向上等に関する法律	原則すべての住宅・建築物の新築、増築、改築	<ul style="list-style-type: none"> <li>・建築確認申請書類の提出</li> <li>・省エネ適合性判定資料提出</li> <li>・省エネ適合判定通知書の交付、提出</li> <li>・確認済証の交付</li> <li>・完了検査申請書類の提出</li> <li>・検査済証の交付</li> <li>上記項目の徹底・遵守</li> </ul>	遵守 違反なし

### 2. 環境関連訴訟等の有無

環境関連訴訟・環境関連苦情等について、この12年発生しておりません。

## 7. 代表者の評価と見直し

弊社が認証取得した2014年、持続可能な社会の実現のため、気象変動への対応と環境配慮が求められている時期でした。

あの時から10年が経過し、弊社の取り組みも着実に歩を進められていると感じています。

ところが本年、産業廃棄物の運搬に関し、違反が指摘されてしまいました。

幸い軽微な違反であった為、原因究明と再発防止策が認められ、行政処分はございませんでしたが、ご迷惑をおかけした関係各位にお詫び申し上げるとともに、二度と違反行為が起きない様全社でチェックを強化致したところでございます。

### 【今期の評価】

- (電 力) 総量としては若干の増であるが、本社においては減少していることから、工事件数の増加と工種の違いによる微増にとどまりました。  
現在の取り組みが不足しているわけではないので継続する。
- (燃料使用量) 車両台数の増加に伴う増加と、工事機械の工種、稼働時間、仕様の変化を考慮すると、努力の成果が出ている為、今後も同様に継続する。
- (総CO2排出量) 繁忙期の波が下半期に集中し、66期については増となりうる事を予想していたが全社的に環境配慮、意識の向上による節減ができています。
- (水資源使用量) 全体としては削減となった。解体工事等、水を多量に使用する工事の受注が少なく工事の受注内容により変動が大きいため今後も無駄な使用を控える、本社に社員が集中する状況となった際の節水の意識について指導を継続する。
- (産業廃棄物) 紙類の使用量削減はデジタル化の促進により進みつつあるが、混合廃棄物の減量がなかなか進まない。作業所での意識は非常に高いものになっているにも関わらず減量につながらず、対策を検討していく必要がある。。
- (総 評) 環境への配慮、持続可能社会実現への取り組みの重要性については、時間はかかったが全社員が認識するところとなっている。  
今期環境配慮の活動自体については数値的には堅調であったと評価できるが、一定の削減が進んでいる電力等についての新たな手法検討が必要と考える。設備投資・契約の変更等だけでなく、小さなことから積み重ねに抛る削減となるような取組みを考えていきたい。  
なお、今期は冒頭でも触れましたが、違反行為を引き起こし、関係各所へご迷惑をおかけしたことは、産業廃棄物の適切な処理を行うべき排出事業者として、その責任を改めて痛感したところであり、同じ過ちを起こさぬよう再発防止を徹底していきます。

持続可能社会の実現に向けエコアクション21の環境経営活動を今後も精力的に推進してまいります。

令和7年7月1日

株式会社 鹿熊組

代表取締役社長 鹿熊 聡